

分類	ご意見・ご指摘	対応（R2.7）
全体・共通		
1	低年齢層への対応をどう考えるか。	ワークシート等での対応を検討していく。
2	外国語対応をどう考えるか。中国語、韓国語は必須となるが、なるべく多くの言語での対応が望ましい。子ども用音声ガイドもあるとよい。	プロローグシアターについては日本語、英語、中国語、韓国語に対応。解説パネル等については原則日英表記。加えて各コーナーの概要については、貸出タブレットにて中国語（簡体字、繁体字）、韓国語に対応。（50台準備）
3	詳細情報がタッチパネルに入っているが、団体が来た場合に対応が難しいと感じる。また、滞在時間が短い方もいるため、各ゾーンで概略がわかるような工夫があるとよい。	・各ゾーンの証言映像で県民目線での概要を伝えるとともに、それぞれ展示演出としても目玉となるコンテンツを用意しているため、そこだけを見ることで概略はわかるようになっている。
4	実物資料の扱いと県博との連携ははどう考えるか。	開館時は福島大学で収集した資料を中心に展示することで調整した。今後展示更新や企画展の開催等で、県博とも連携して進めていくこととしている。
5	原子力災害がADR（原子力損害賠償紛争解決）を含めて現在進行形であるため、将来どう対応していくか。	・5年スパンで部分更新、10年で大規模更新を想定している。 ・シアターコンテンツの更新は毎年等短いスパンで行うことが難しいため、「復興への取り組みが始まっている」ところまでを扱い、現在進行形の部分については詳細まで取り上げず構成する。 ・随時情報を更新することが必要な「長期化」「復興への挑戦」は、展示も更新が可能なシステム（情報コンテンツ、実物、グラフィック等）を採用する。
6	原子力災害の原因として、津波だけで良いのか、裁判で争われている内容の扱いをどうするか。	・各案件の内容については、事実確認がとれないため、取り上げない。現在明らかになっている事実のみを展示に反映する。
7	人と防災未来センターでは、語り部を含めて複合的な展示をしている。また、研究活動や資料の活用などを通して、人材育成にも取り組んでいる。	・語り部については、研修室及びワークショップスペースでの連携を想定している。別途アテンドスタッフも配置。 ・研究活動や人材育成については、調査研究・研修事業として別委員会で検討中。 ・語り部育成事業については2018年より取り組んでおり、今年度も指定管理者が継続している。
8	複合災害として、地震・津波と原子力災害をどうすみ分けるか。何を持ち帰ってもらうのかを明確にした方がよい。	・「災害の始まり」では地震・津波被害、原子力発電所事故をコーナーを区切って棲み分け。以降は原子力災害を中心に構成。 ・「災害の始まり」～「県民の想い」では、「福島で何が起きたのか」という事実と、当時の県民の想いについて、来館者に伝え、災害は自身にも起こりえるということを意識させる。 ・「長期化する原子力災害への対応」では、来館者に福島への教訓を伝え、前段を踏まえて、自身の防災意識を高めてもらう。
9	復興で街がどんどん変わっていつている。OFCや県原子力センターのホワイトボード等も実物だけではなく、空間の映像も残したい。	資料収集予定と併せて内部の撮影も行った。また、大熊町、双葉町の映像についても撮影済み。
10	映像が多いため、いかに来館者を惹きつけられるか展示に工夫が必要。実物との組み合わせ等を検討してほしい。	・各ゾーンで目玉となるコンテンツ・演出で来館者を惹きつけたい。実物展示も各ゾーンに取り入れている。
11	映像設備について、メンテナンス等への配慮が必要となる。いかに簡便なシステムにするかが重要になる。	・基本的にはLED光源のプロジェクター等長寿命の機器を採用し、メンテナンスが頻繁に必要なよう配慮した。
12	触れる体験型展示はあるか。	・各種検査機器等をワークショップスペースに展示する。

分類	ご意見・ご指摘		対応（R2.7）
プロローグ	13	人と防災未来センターと異なり、時系列に当てはめることはできない。福島の明るい部分も見せた方が良い。	・シアターコンテンツは「復興への取り組みが始まっている」ところまでを扱いたい。
ゾーンタイトル	14	() カッコ書きはタイトルとしてふさわしくない。修正の方向性は問題ない。	カッコ書き削除
	15	全体としてタイトルが長い。	「原子力発電所事故」等の言葉自体が長くなってしまいが、なるべく分かりやすいものとなるよう、配慮した。
	16	"初期"の期間をどう考えるか？いわきでは4・11の被害が大きい。場所によっても"初期"の考え方が異なる。	・初期の期間は、避難所生活までのイメージでゾーンを構成している。避難所を出てからの生活については、長期化の部分で取り上げる。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

分類	ご意見・ご指摘	対応（R2.7）
プロローグ		
1	エネルギー変遷について、福島県は炭や水力発電も盛んであったため、扱いを検討してほしい。	スロープ年表で掲載
2	津波から建屋水素爆発の間に、全交流電源喪失などの経過を追加したい。	全交流電源喪失の内容を追加。
3	発災直後の視点は国を挙げての対応などがあったため、その要素は追加したい。	プロローグ映像は全体の流れを追っていくため、各対応等については割愛し、「原発避難の7日間」映像内での取り上げとした。
4	この災害は様々な問題を世界に投げかけた側面もある。プロローグ以外のゾーンでの取り上げでも良いが、国内外へ向けての学習機能もほしい。再生可能エネルギーの導入等のエネルギー政策、廃炉など。	「復興への挑戦」での取り上げとした。
5	住民の帰還が進むにあたり、全国、海外からの多くの支援があったことを加えたい。“人”が見えるとよい。	配慮した映像構成になるよう、編集を進めている。
6	現在進行形の災害であるが、この映像をいつまで使うか、更新をどう考えるかが重要となる。	2020年の開館時の情報を基本として考えているが、プロローグ映像では復興が始まっていることを伝えてエンディングとしているため、復興が進んでも違和感のないように配慮している。
7	導入映像のため、インパクトが重要である。この後の展示を「見てみたい」という印象を残せるとよい。	大型・多面スクリーンで没入感のある演出を検討する。ただし、資料映像の揺れによる映像酔いや津波などのPTSDを誘発する演出は配慮をしながら検討を進める。
8	多くの人・団体が一緒に見るため、映像の長さが気になる。	3～5分程度で制作中
9	ねらいにある「原子力発電所と生活を共にし、安全性を信頼してきた人々」の内容をどう示すか。	「事故前の暮らし」の部分で資料映像を使い表現する。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

分類	ご意見・ご指摘	対応（R2.7）
	10 会津・中通りの日常生活も失われてしまったような誤解が無いように構成してほしい。	誤解の無いように配慮して編集を進める。
	11 地震のカウントダウンの前に全県的な情報を出すと、誤解を与える。P-4については、震災前の浜通りの日常生活に絞って良いのではないかと。	
	12 伝統工芸は、震災後もなお続いているものなので、現在の様子を取り上げるエンディングに持っていく方が良い。	誤解の無いように配慮して編集を進める。
	13 オープニングの全県的な情報の後、浜通りのエネルギー変遷の話に移行する際など、全県的→部分的な話に切り替わる時は、それが伝わるよう、構成に工夫が必要。	誤解の無いように配慮して編集を進める。
災害の始まり 【事故前の暮らし】	14 事故前の暮らしのコーナーで、避難区域の人口の変遷は示されるか？冒頭の基礎情報として、人口等が入ってもよいと思う。どれだけの方が被害を被ったのかを知ることができる。展示アテンドスタッフの口頭説明で示すのも手。長期化ゾーンで取り上げる場合も、前後の比較などグラフィックパネルや模型で示せると良い。	「事故前の暮らしコーナー」において、事故前の県内人口を地域ごとに解説パネルに記載した。また「長期避難への対応コーナー」において、避難者数の推移を解説パネルに記載。
	15 学校数の推移を取り入れても良い。学校数の推移は子供の数と比例するため、人口推移が分かりやすい。	「長期避難への対応コーナー」タッチパネルへ掲載。
	16 映像シナリオについて、観光情報が多いように感じるが、学校生活などの日常生活を示すことも重要。震災当日は地域の学校の卒業式だったはず。	実物資料で補完することとした。
	17 映像シナリオについて、冒頭が事故後の様子だと暗い印象になってしまうか。	冒頭事故後の様子は削除した。
	18 映像シナリオについて、町の大半が津波被害を受けている請戸地区を取り上げてほしい。	請戸漁港の出初式映像を追加。
	19 展示全体として、扱うのは浜通り地域で良いのか？	基本は全県的に扱う。ただし、原子力災害に焦点を当てるのが当施設のコンセプトであるため、浜通りの話題が多くなっている。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

分類	ご意見・ご指摘	対応（R2.7）
	20 展示ゾーンは、このゾーンだけ、と個別に見るようなことはできるのか。	特定のゾーンのみを観覧していただく想定はしておらず、プロローグ～復興への挑戦まで全てを見ていただく導線で設計している。
	21 モノや空間には限りがあるため、語り部による生の声で、展示には反映しきれていない情報も伝えていくことが重要。	語り部や展示アテンドスタッフについて、施設内に配置する。
	22 一部の地域だけではなく、福島県全体として課題を抱えているという意識を伝えたい。	基本は全県的に扱うため、ご指摘の内容を踏まえて展示全体の検討を進める。
災害の始まり 【東日本大震災～地震と津波の記録～】	23 震災・原子力災害について全県的に扱うのであれば、A2-2で会津や中通りの被害なども紹介してはどうか。	地震・津波の様子を伝える映像で、会津・中通りの被害も伝える。
	24 以降の展示の基本情報となるため、県内の震災による被害（関連死など）の全体像を示す方が良い。	関連死も含め同コーナー内に記載する形とした。
	25 人口流出、コミュニティ喪失が大きな被害としてあるため、グラフィック解説などに取り入れられると良い。	「長期避難への対応コーナー」タッチパネルにおいて記載。
	26 事務局より、資料番号032（津波被災郵便ポスト）、033（津波被災交通標識）について、展示ケース発注の都合上、他資料に先行して展示確定とした旨説明。	【委員回答】2点について先行確定とする旨異論なし。
	27 ポストや道路標識などは、津波でなぎ倒されたイメージからすると寝かせて展示するか。	スペース上厳しいため、立たせた状態で展示。
災害の始まり 【原子力発電所事故の発生】	28 映像シナリオについて、「想定外の」等、言葉には配慮が必要。	注意が必要な文言について、修正。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

分類	ご意見・ご指摘	対応（R2.7）
災害の始まり 【災害対策本部の記録】	29 オフサイトセンターの資料収集が進んでいると思うが、県庁の文書等の収集状況はどうなっているか？	オフサイトセンター内で使用されていたホワイトボード等を展示する。
	30 事務局より、資料番号067（福島第一原子力発電所周辺図-1）、068（福島第一原子力発電所周辺図-2）について、展示ケース発注の都合上、他資料に先行して展示確定としたい旨説明。	【委員回答】2点について先行確定とする旨異論なし。
	31 オフサイトセンターの地図などは、実物の迫力を伝えたいというものもあるが、壁等への映像投射で展示するという手法もある。	展示全体として映像が多くなっていることと、実物が持つ迫力を活かしたいため、実物での展示とする。
原子力発電所事故直後の対応 【避難の開始】	32 避難の全体像を紹介することが必要だと思う。自主避難のことなども説明したい。	「原発避難の7日間」映像及び証言映像内の取り上げとした。
	33 「避難の開始」では避難指示が出された地域のみを取り扱い、自主避難については「県内に広がる不安」で取り上げるか、または、「避難の開始」でまとめて取り上げるか、検討の余地がある。	
原子力発電所事故直後の対応	34 タッチパネルで選択になるが、映像尺はどれくらいか？	1本あたり3～5分程度
	35 NHKの素材ということだが、様々な事故調査報告書があるため、どれを基準にするか等配慮が必要となる。	事故調査報告書も含め、情報の出典を明確にするよう、精査を進める。
	36 「避難を強いられた人々」について、大熊・双葉は比較的早期にスムーズに避難した。浪江、富岡などの動きを扱うことも検討してほしい。慎重に情報を扱う必要がある。	大熊、双葉、浪江、富岡について取り上げる構成とした。
	37 実物での補足等も検討してほしい。	避難所で使用されていた実物資料等を展示。
	38 いわき市は4・11で物流が滞った。このことも触れたい。	スロープ年表及び証言映像にて取り扱う。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

分類	ご意見・ご指摘	対応（R2.7）
【県内に広がる不安（原発避難の7日間）】	39 県外の人にも多くの不安を与えたことは説明したい。	「国内外の反応と支援」の解説パネルで紹介。
	40 国によっては、自国民を退避させるなどの対応もあった。このことも伝えたい。	「国内外の反応と支援」の解説パネルで紹介。
	41 この災害は情報の扱い、伝え方を問われた災害であった。今後の大災害に備えての方針も伝えたい。	ご指摘の内容を展示として伝えるにはかなりのボリュームになることが想定されるため、展示では当時の実態を伝えることに主眼を置き、防災的な視点は研修などで扱うこととした。
	42 富岡から川内に避難する列車の写真、震災伝承の活動で使用しているが、この写真1枚から多くのことを語れる。こういった写真があると良い。	解説パネル上部の写真に使用。
	43 スクリーニングの写真は、当時の県民の不安が伝わる写真でもあると思うので、ぜひ展示したい。	解説パネル内に写真掲載。
	44 空港に泊まる人々もいた。その写真等も収集したい。	空港内の様子について解説パネル上部へ写真掲載。
	45 双葉病院に入院していた方々の避難等、災害弱者の状況も扱いたい。	「原発避難の7日間」映像へ追加。
原子力発電所事故直後の対応 【国内外の反応と支援】	46 支援に対する感謝の部分は展示されるか？	いただいた支援について実物資料等で取り上げる。
	47 県内にいた外国人の方の行動について今後の資料収集・インタビューに反映できるとよい。展示できれば、海外の方が当時の様子を思い出し、共感するきっかけにもなる。また、情報として収集し、研究等に使用できるのでは。	外国人の方の証言映像を展示。
県民の想い	48 プロローグと同じような印象を受ける。ここでイメージ映像のようになってしまうのは主旨がちがうのでは？県民の想いはしっかりと表現できるか？	プロローグは事実をたどっていくもの。ここでは「県民の想い」を中心に構成する。個別映像はじっくり見る人もいれば、流してしまう方もいるため、全体演出を入れている。
	49 証言映像との違いは？	各コーナーの証言映像は“想い”というよりは、実際の体験や状況などを中心に語ってもらおう。「県民の想い」については当時の“想い”中心に語ってもらおう。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

分類	ご意見・ご指摘	対応（R2.7）
50	全体演出に唐突感が出ないように配慮が必要。	4か所に設置される「県民の想い」を紹介するモニターの映像が急に途切れるなどの状況が無いよう、連携したシステムとした。
51	個別の証言映像がしっかりと見られるように全体演出のタイミング等を配慮してほしい。	
52	全体演出の風景映像などは不要だと考える。証言の組み合わせのみで良いのでは。	証言を中心に構成するが、全体にストーリー性を持たせるため、関連する資料映像を合わせて構成する。
53	証言映像は、話している本人の表情と合わせて使用したほうが、より感情が伝わる。	撮影の際に許可を得て、表情と合わせて使用する。
54	コミュニティが崩壊してしまったことを伝えたい。	関連内容について証言映像で組み込まれている。
55	避難に伴い、家族同然のペットや、家畜を置いていかなければならなかった悲しみ等も表現したい。	関連内容について証言映像で組み込まれている。
56	広島と異なり、原子力災害の場合は不安などの目に見えない被害が多い。そこをどう表現するかが課題となる。県民の言葉が中心となるが、避難（転校）後のいじめなどの問題は顔を出すことが難しい。しかし、実態としては紹介すべきである。	いじめ関連の記事紹介について、パネル展示を検討中。
57	音の干渉等に配慮して、ゾーンを分けられないか？個別の映像をじっくり見ている人に対し、全体演出が邪魔にならないようにしたい。	個別映像と全体映像が同時に流れることは想定していない。個別映像同士の音干渉はモニターの配置とスピーカー位置の調整で検討する。
58	想いを語ってもらう時に、人それぞれの状況が異なる。前向きな人、深刻な人などベクトルが異なる人の声を聞きとるにあたり、配慮が必要である。	インタビューの際は、相手の状況に配慮して進めた。また、証言映像においては証言者の被災状況がわかるようにする（被災場所、職業など）。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

分類	ご意見・ご指摘	対応（R2.7）
	59 インタビュー対象者の現在の状況は聞くのか（当時は〇〇だったけど、今は〇〇と考えている、など）？当時持っていた不安を聞くだけでなくするように配慮するなど、一連の流れで語ってもらうようにしたい。	インタビューの際は、当時の状況～現在の状況までお聞きした。展示映像として、どのコーナーで、どのように使用するかについては、あらかじめ了承を得て、構成した。
	60 8年経過し、避難した方々等の関心はふるさととの関わり方に向いてきている。人の声（想い）は変化していくため、開館時にどうなっているかも検討する必要がある。できるだけ現状に沿ったものにしていきたい。	展示の際はいつ収録された映像か記載し、あくまでもその時点の状況であることを補足する。できるだけ現状に沿った展示とするため、映像更新の頻度については、検討していきたい。
	61 県民の想いの要素は他のゾーン・最後にも出てくるのか？	復興への挑戦の最後では、復興に向かう県民の想いを入れる予定である。
	62 展示スペースには限りがあるため、県内の他のアーカイブ施設との連携やそちらへの誘導も検討していただきたい。	運営面で周辺施設と連携していきたい。
長期化する原子力災害への対応 【ゾーン全体について】	63 タイトルについて、原子力災害ではなく「原子力被害への対応」の方がしっくりくる。「原子力災害」というと廃炉まで含まれるイメージ。	「原子力被害」という言葉は一般的でないため、「原子力災害」のままをしたい。廃炉については、新技術の開発と合わせて、「復興への挑戦」ゾーンで取り上げることしたい。
	64 第一原発の廃炉、汚染水、第二原発の廃炉についてはどう扱うのか？	廃炉については「復興への挑戦」で紹介する。
	65 線量のデータなどしっかりと科学的な裏付けと合わせて見せたい。	国、県で公式に発表しているデータをもとに展示を構成する。
	66 「原発から新たな放射性物質の拡散などの実態はない」ということをどこかで伝えた方が良い。	原発の現在の状況については、「廃炉の今」コーナーで正しい情報を伝えていく。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

分類	ご意見・ご指摘	対応（R2.7）
	67 展示と異なる見解について質問されることもあり得る。説明するスタッフなどはいるのか。一緒に考えていく、という姿勢がほしい。	展示アテンドスタッフを配置し、想定Q & Aをもとに対応する。
長期化する原子力災害への対応 【風評の払拭】	68 4つのテーマの中で最初に見るものとして、「風評」という言葉を県民は理解しているが、県外の方がスムーズに理解できるかが課題。 他3つのテーマを踏まえて、「風評の払拭」が必要だと伝える順番の方が分かりやすいのでは。	解説グラフィックの詳細内容製作と合わせて、以下のとおりコーナー順番を入れ替えた。 ①除染 ②風評払拭 ③長期避難 ④健康 ゾーンの流れとしては以下を想定。 線量低減のため除染に取り組み、線量検査等を経て安心・安全な農林水産物等を提供する努力をしているが、風評が根深いということを伝え、払拭の取り組みを伝える。 次に、県民1人1人の生活に焦点をあて、長期にわたる避難の状況や、避難生活の長期化に伴う生活環境の変化など新たな課題に関して行われてきた、健康に関する取り組みの状況を伝える。
	69 生産者側の意見に寄りすぎず、消費者側の意見にも寄り添いたい。生産者も消費者も安心できる環境を整えるため、実施している取り組み等の事実を伝えたい。	「風評の払拭コーナー」内タッチパネルで紹介する。
長期化する原子力災害への対応 【除染の取り組み】	70 環境創造センターとの内容の重なりについてはどう考えているか。	伝承館に来た人が必ず環境創造センターに行くとは限らないため、展示構成上、多少の内容の重複は発生し得ると考えている。
	71 初期は学校除染の問題など、さまざまな試行錯誤があったため、現在の状況と合わせて初期の状況もわかるようになるとよい。	研究者インタビューにおいて、初期から対応にあたっていただいたJAEAの職員の方にお話いただく。
	72 食品の安全対策の部分もしっかりと見せた方がよい。	「風評の払拭コーナー」タッチパネルにおいて掲載。
	73 中間貯蔵施設については紹介するか？	タッチパネル解説に含んでいる。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

分類	ご意見・ご指摘	対応（R2.7）
	74 中間貯蔵施設に加えて、その後の最終処分に関する情報提供も必要。中間貯蔵施設のテーマには、土地を手放した方々の想いも関わってくる。最終処分について方針が固まっていない点等、問題が残されていることを風化させないことも必要。	タッチパネル及び解説パネルにおいて掲載。
	75 事務局より、資料番号178（防護服）、179（フレコンバッグ）について展示スペースの都合上、他資料に先行して展示確定としたい旨説明。	【委員回答】2点について先行確定とする旨異論なし。 この2つは事故後の対応を象徴するものであるため、展示物としては必須。
長期化する原子力災害への対応 【長期避難に対する取り組み】	76 意見なし	
長期化する原子力災害への対応 【健康不安に対する取り組み】	77 帰還した人が庭で育てた作物などについて、簡単に線量が測れる場所がある（富岡でも2～3ヵ所）。こういったことも展示で伝えられるとよい。	「風評の払拭コーナー」タッチパネルへ掲載
復興への挑戦 【行政による復興への取り組み】	78 浜通りのみ取り上げるコーナーか？	県内全域の取り組みを扱っていく。
	79 A6-1（行政による復興への取り組み）とA6-4（12市町村の復興への取り組み）をまとめて展示していく方がわかりやすく感じる。	同コーナー内にまとめて展示することとした。
復興への挑戦 【廃炉の今】	80 意見なし	
復興への挑戦 【福島イノベーション・コースト構想の取り組み】	81 意見なし	

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

分類	ご意見・ご指摘	対応（R2.7）
復興への挑戦 【12市町村の復興への 取り組み】	82 行政の取り組みのみ取り上げるか？	行政に限らず、市町村全体の復興への取り組みを伝えていく。
復興への挑戦 【みらいのまち】	83 展示の最後をどう見せるかによって、配置を検討する方が良い。	展示の最後は現行どおり「県民によるチャレンジ」とし、これからも未来へ向かって前向きに進む県民の姿を来館者に見てもらい、展示の最後としたい。
	84 みらいの街は、他の展示と違う、体験型の展示なので、これを展示の最後にする方が良いと感じる。	
	85 このコンテンツは、現在の街の姿と切り離して考えるということか。12市町村以外は街の構造自体に大きな変化はないので、基本的には帰還困難地域に特化した方が良いか。みらいの「街」を作らせることの意味をもう少し議論したい。 各個人が考える希望の街を作ってもらおうという趣旨で、「夢の街」というコンセプトでもよい。また、12市町村の震災前の姿を思い出しながら作ってもらおうのもよい。	ブローグ映像において災害を自分事として考えるきっかけとしてほしいというメッセージを伝え、みらいのまちでは、展示の最後に、子どもたちも楽しみながら、みらいについて考えるきっかけづくりの場としてもらえるよう位置付けている。 なお、12市町村ではなく、あくまで会津地方、中通り、浜通りを模した3パターンのまちづくりとする（現在のまちの姿と直接リンクはさせない）。
	86 故郷は離れていても故郷であるため、これを見たときに明るく「こんな街が良い」とできるとよい。	
	87 みらいの街は、複数人で作業するとつり合いがとれなくなってしまうので、複数台用意し、個人で体験できるようにした方がよい。「みんなで作る」という名称も合わせて検討。	来館者で協力してまちづくりを行ってほしい。複数人で協力して作業できるよう、バランスに応じてメッセージを出現させる等の仕組みを検討中。
	88 個人で体験するのであれば、出力して持ち帰れるようにするとよい。	出力式にすると、システム管理上、紙詰まりなどの故障リスクが高まるため、その場で確認するのみに止めたい。
	89 帰還困難地域に住んでいた方は、別の場所で生活をしている。その決断も後世に伝えられるようにしたい。	震災前とは違う地域で生活されている方々の想いについては「県民の想い」において、また、違う地域に移って始めた新たな取り組み等については「県民によるチャレンジ」において取り扱うことを検討する。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第2回資料選定検討委員会（2019年1月30・31日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

※ガイドライン改訂に関するご意見はありませんでした。

分類	ご意見・ご指摘	対応（R2.7）
	90 事務局より、資料番号190（子供が作る未来の街模型）、192（浪江町の昔の街の様子模型）について、体験形コンテンツとの関係が密接であるため、他資料に先行して展示確定としたい旨説明。	【委員回答】2点について先行確定とする旨異論なし。
復興への挑戦 【県民による復興への取り組み（チャレンジ！ふくしま）】	91 震災後の県民の復興への取り組みの中に、福島の今を伝える活動がある。これを若い人に引き継いでやっていく流れがあるため、再生だけではなく、現状を伝えていくための新しい活動も紹介したい。（ホープツアーなど）	事例紹介パネルで紹介する。
	92 震災をきっかけとしてできた御縁、つながりを何らかの形で見せられるとよい。	事例紹介パネルで紹介する。
	93 福島県の若者（高校生等）だけが感じ取れたこと、伝えられることについて、取り上げるのもよい。	解説グラフィック・証言映像での紹介、もしくは語り部・スタッフによる紹介など、運営面も考慮して検討する。
	94 伝統・歴史・文化・自然を将来に残していく活動が多く行われているため、どこかで紹介したい。	事例紹介パネルで紹介する。
	95 来館者がメッセージを残せるようなコーナーがあってもよい。展示を見た後の想いを、言葉に残すことで、来館者自身も整理することができる。	展示を見た後にメッセージを残すことを考慮し、展示室外側の廊下や1階エントランスホールなどで設置を検討中。
全体・共通	97 県民の想いのゾーンは何名入るか？全部の証言を見せることは難しいので、皆が一斉に聞けるとよい。	20～30名程度。
	98 全体の見学時間はどの程度を考えているか。ツアーへの組み込み等を考慮し、所要時間はあらかじめ決めておいたほうが良い。	1時間～1時間半程度はかかる見込み。
	99 学校団体の来館が多く想定されるため、時間等見学アテンドの方法や、小学校高学年程度でもわかるような解説を検討したほうがよい。	学校団体の場合は、基本的にスタッフによるアテンドを基本として考えている。ワークシート等を使った子ども用解説も検討している。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第3回資料選定検討委員会（2019年7月26日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

分類	ご意見・ご指摘	進捗・対応（R2.7）
プロローグ	1 この施設がただの記念館ではなく、災害の記憶や経験をしっかりと「アーカイブ」し、学びや教育に用いるとともに未来につないでいくということを、来館者にどうやって伝えるか。そこが抜けている気がする。プロローグで発信してはどうか。	エントランスホールに施設の基本理念を掲示。合わせて、プロローグ映像では災害の自分事化を促すような演出・ナレーションとしている。
	2 恐らく、この施設については色々な意見が出てくる。中には否定的なものも。ただ、そういう人たちを含め、5年10年経ったときに「あそこに行けば当時の出来事に想いを馳せられる」という認識を持ってもらう、そうして長く伝えていくのがこの施設の大きな役割。ぜひそういう点を意識してほしい。また、アーカイブ拠点施設の役割を伝えるのは、有料エリアより無料エリアのほうがよいのでは。	
	3 建物の入り口で、簡単なパネル・モニター等で施設の主旨・目的を説明するものがあるとよい。	
	4 プロローグを見て完結するのではなく、プロローグの映像に“課題”も含めて、さらに深く情報を知りたくなる仕掛けが必要である。	プロローグ映像では各ゾーンの要素をピックアップして構成し、次に続く展示ゾーンへの期待を持たせる構成となるよう編集している。
	5 プロローグで調査・研究事業につなげられるアイデアがあるとよい。	
	6 プロローグの映像の流れは問題ないと思う。最後の部分の見せ方で工夫してほしい。災害の表現として淡々と見せることは賛成。	
	7 プロローグ映像は開館後に頻繁に入れ替えることは可能か。	技術的にも頻繁に更新することは難しい。現在の構成では廃炉のことなども触れていくが、細かい内容は扱わないようにし、頻繁に更新しなくても対応できる構成としている。
災害の始まり 〈2-3 原子力発電所事故の発生〉	8 チェルノブイリ、スリーマイル、JCO事故等との比較について、研究者ではない一般の方に説明するのは難しいのではないか。	今回の事故のレベル感を認識してもらうため、過去の事例を紹介するとともに、国際原子力事象評価尺度によるレベルにより、比較を行う。
	9 配達されなかった新聞もあったが、被災した中で配達された新聞もあったため、扱いを検討してほしい。	配達された新聞を展示する。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第3回資料選定検討委員会（2019年7月26日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

分類	ご意見・ご指摘	進捗・対応（R2.7）
原子力発電所事故直後の対応 〈3-1 避難の開始〉	<p>10 震災後改訂された防災計画についても、具体的に取り上げてほしい。震災時、いくらか事前に訓練をやっても本番で役に立たないこともあった。そういったことを含め、スペースの問題があるにせよ、アーカイブ拠点施設が訪れる人々の震災への理解や将来に活かすうえで次につながるきっかけになってほしい。</p> <p>11 詳しく説明できなくても次に繋げる仕掛けは必要になる。他のコーナーにおいてもこの視点は重要である。</p>	<p>「復興への挑戦ゾーン」内スライドショーにおいて「防災」分野の取り組みを紹介する。</p>
〈3-2 県内に広がる不安〉	<p>12 避難の過程の部分で、「震災関連死」については取り上げる予定はあるか。福島県としては避けて通れないと考える。</p> <p>13 地震、津波の被害状況のデータについては「2-2 東日本大震災～地震と津波の記録～」で扱うか。</p> <p>14 ビッグデータの使い方について、津波時の避難など研究につなげるようにできるとよい。原発事故での避難もどうあるべきだったか、を示せるとよい。</p>	<p>「震災関連死とは」の解説については「災害の始まりゾーン」において、避難時に亡くなられた方がいることについては、「原発避難の7日間」映像内で取り上げる。</p> <p>映像とデータを組み合わせて構成予定。</p> <p>車の位置情報等から集計されたビッグデータと合わせて、当時の避難状況について解説する映像を作成中。当時の状況を展示映像から知ってもらい、対策について考えるきっかけとなるよう、研修プログラムとの連携を行っていく。</p>
〈3-3 国内外の反応と支援〉	<p>15 FUREのメンバーが収集している資料を考えると、このコーナーの実物収集資料はあまりないと思われる。また、双葉町が埼玉に避難されている時の資料は筑波大の白井先生の所に預けられていると思うが、その資料を借用して展示することもあるのか確認したい。</p>	<p>開館時は福島大学で収集した資料を中心に展示することで調整した。今後展示更新や企画展の開催等で、県博とも連携して進めていくこととしている。</p>
復興への挑戦 〈6-2 廃炉の今〉	<p>16 廃炉の研究開発を進めるJAEAの3施設はイノベーション・コースト構想の廃炉研究分野の位置づけもある。廃炉の研究を見せる展示は考えられているか。廃炉の前向きな部分についても見せられると良い。</p>	<p>「6-3 福島イノベーション・コースト構想の取り組み」のタッチパネル解説映像内で紹介する。</p>

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第3回資料選定検討委員会（2019年7月26日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

分類	ご意見・ご指摘	進捗・対応（R2.7）
<p>〈6-4 미래のまち〉</p>	<p>17 作ったデータが形になったり残ったりするとよい。コンテストの実施、データの持ち帰り、HPでの紹介とか。</p>	<p>データを蓄積できるようなシステムとしており、活用方法については引き続き検討中。</p>
	<p>18 技術的に難しい部分はあるにしても、イベント時に成果品を披露するなど施設の運営上可能な形で対応できればよいのでは。</p>	
	<p>19 データを保存するシステムは作っておいた方が良く、データを保存して二次的に使用する旨も表記した方がよい。</p>	
	<p>20 例えばVRを使い所要時間10分のうち8分で作って残り2分で実際に作った街中を歩けるようになると面白いのでは。</p>	
<p>〈6-5 チャレンジ！ふくしま（県民による復興への取り組み）〉</p>	<p>21 見学に来た県外の高校生がテレビ電話などを使い双葉郡の高校生に想いを伝えるといった双方向の仕組みが作れないか。震災を経験した人たちだけでなく、むしろ将来を担う若い世代の証言・発信を多く取り上げてほしい。 体験した人の言葉と同じように、災害を経験していない子ども・新しい世代が増えてきているため、そういった子たちの想いを発信することが大事になる。</p>	<p>10分のゲーム終了後、完成したまちの様子を確認することができるようなストーリーとしている。</p> <p>展示見学やフィールドワークを含めた研修プログラム内で、ワークショップを行う予定。ワークショップの結果等について蓄積されたものを、企画展等に生かせる仕組みを検討中。</p>

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第4回資料選定検討委員会（2019年11月29日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

分類	ご意見・ご指摘	進捗・対応（R2.7）
災害の始まり 〈1-1 事故前の暮らし〉	1 ○ 今回の災害で双葉郡における県立高校は実際消滅に近い状況になっているが、校舎は取り壊されず、当時の記録がそのまま残っている。それらの資料も残していきたい。	・ 1月中旬に、富岡高校校舎、新体育館、記念館内に立ち入り、卒業生のメッセージや3月の予定表等、約20～30点程度の資料を収集済み。校舎外に設置されている全国総体の出場告知看板等、大型資料については、順次収集している。
	2 ○ 災害前にどこにどれだけの学校があったかなどの情報を出して行くことを検討してほしい。	・ 「長期避難への対応」コーナー内タッチパネルにおいて、学校数の推移について取り上げる。
	3 ○ ふたば未来学園の学園祭において、各校の年史や様々な資料が展示されていたため、参考にするとうい。	・ ふたば未来学園高校に確認したところ、休校中の4校の校旗（ふたば未来学園高校が管理）、富岡高校50周年記念誌（個人所有物）、4校の卒業アルバム（個人所有物）、その他県立図書館が保管している4校に関連した資料等を展示したとのこと。参考にして、教育庁、県立図書館と連携し、企画展等を検討したい。
	4 ○ 「地域の伝統を伝える実物資料」について、被災地の成り立ちなどを万遍なく伝えることを検討いただきたい。	・ 浪江、双葉、富岡、大熊、相馬、南相馬、楡葉等の浜通り被災地域から特徴的な民俗芸能、祭り、昔話等に関する資料を収集済み。各自治体によって収集点数が異なるため、点数が少ない市町村については、今後の調査・収集を検討している。
	5 ○ 「原子力発電所の広報、地域との関係に関わる実物資料」について、なぜ福島島の沿岸部に原発が立地・建設されたかを説明するには、このコーナーしかないと考え。	・ プロローグ映像及び解説パネル等で紹介する。
	6 ○ 「原子力明るい未来のエネルギー」の看板は伝承館で展示されるべき資料だと考える。是非検討してほしい。	・ 文字パネルの常設展示を検討中
	7 ○ 原子力に対する想いとして、各自治体の町民歌にも原子力との関わりが表れているものがある。こういったものも扱うテーマとして検討したい。	・ 原子力との関わりがある資料の1つとして、各自治体の町民歌の内容を調査し、企画展等に生かしたい。
災害の始まり 〈1-2 東日本大震災～地震と津波の記録～〉	8 ○ 津波の高さについて、なかなか理解することが難しいため、その高さを実感できるような工夫ができるとよい。	・ 津波の高さを施設敷地内に表示する等の検討を進める。
	9 ○ 気仙沼の高校で、3階に車が突っ込んでいたのをそのまま保存しているので、参考とするとよい。	・ 参考にしたい。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第4回資料選定検討委員会（2019年11月29日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

分類	ご意見・ご指摘	進捗・対応（R2.7）
原子力発電所事故直後の対応 〈2-1 避難の開始〉	10 ○被災当時、福島は非常に寒かった。実際に皮膚感覚で寒かった状況を実物資料と併せて伝えられるとよい。	・避難所内を撮影した画像とともに、避難所から収集した毛布代わりに使用した暗幕やストーブ等の実物資料を展示する。
	11 ○長期化の部分とも関係するかもしれないが、全国にわたる避難先の状況・生活などは紹介するか。いじめの問題などもあるため原子力災害の特徴や教訓として検討するとよい。	いじめ関連の記事紹介について、パネル展示を検討中。
	12 ○全国から制度的に支援をしてくれた内容などを見られるとよい。	・ふるさと帰還通行カードや災害復興住宅融資のチラシ等、国や法人による制度的支援の一例と捉えている。
	13 ○「避難の開始」はどこまでの時期を扱う予定か。また、どれだけの方が日本全国に散り散りに避難せざるを得なかったかなどの数を示せるとよい。	・「長期避難への対応」コーナー内「避難者数の推移」において、全国にどれだけの方が避難されたのか、推移を紹介する。
〈2-2 県内に広がる不安〉	14 ○「県内に広がる不安」、「除染」、「研修・ワークショップ」などいろんなコーナーに線量計が候補として入っているが、個人で調達された線量計もある。	コーナーテーマに沿った展示となるよう展示場所を整理した。（実物リスト参照）
	15 ○SPEEDIのデータについて収集できているか。当時かなり議論されていたため、関連資料として収集できるとよい。	解説パネルに追加する方向で整理中。
〈2-3 国内外の反応と支援〉	16 ○海外からの支援について、県内の高校に勤めていた外国人教員で、一度避難したが戻ってきている先生がいる。関連する資料を多く集めている人もいるため、それを提供してもらうことも検討してほしい。	・震災当時から現在まで、ALTとして双葉町の小中学校に勤務している外国籍の方に「海外からの支援」に関する情報や資料等を依頼済。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第4回資料選定検討委員会（2019年11月29日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

分類	ご意見・ご指摘	進捗・対応（R2.7）
長期化する原子力災害の影響 〈4-1 除染〉	17 ○伝承館でどこまで扱うかは不明だが、浪江・双葉で行われている除染と中通りの除染は異なるため、タイベックスーツなど注意して展示していかないと誤解が生まれる可能性がある。	・キャプションのつけ方に留意して展示することとしたい。
	18 ○見せ方として、皇室関係の方が川内村を訪れたことを取り上げ、避難指示が解除され、人の出入りが自由になったことを示すというのも1つ。また、どこまで除染済、という地図やグラフと合わせて展示するなど。皇室関係の写真等が出せるかは別途確認が必要かと思うが…	「復興への挑戦ゾーン」復興年表での取り上げを検討中
	19 ○震災発生当時、皇室関係の方が来られた。その時のことを展示で紹介する場合は宮内庁の確認が必要か。	
	20 ○除染、風評に絡むが、環境が回復されている経緯については紹介するか。	・「除染」コーナー内の解説において、「空間線量率の推移」などで紹介。
県民の想い 〈3-3 家族との思い出や地域生活との別れ〉	21 ○襖などの大型の資料は現状の造作に収まるか。	・造作内に収まるよう、実物展示候補資料のサイズ採寸を行っており、資料に合わせて棚板を作成する。
	22 ○証言映像は1本当たり何分程度か。また、地域は万遍なく入るか。	・3分程度で想定しており、3人の方に話していただくために一人当たり1分程度となる。証言者の地域は被害の大きさ等により、浜通りが多くなってはいるが、県内全域を取り上げるため、中通りと会津の証言者も含めるよう配慮した。
	23 ○証言はテーマに沿った内容を話してもらっているか。	・証言映像は「県民の想い」に限らず各コーナーに設置されているが、それぞれテーマに沿った内容を話してもらっている。
長期化する原子力災害の影響 〈4-3 長期避難への対応〉	24 ○各町が把握している範囲で構わないが、双葉郡の避難者数と同時に仮設住宅が県内のどこに何か所できているかがわかるとよい。県内の仮設住宅でも住民がバラバラになってしまった状況と仮設住宅そのものの状況（間取り等）もわかるとよい。	・住民が各地へ避難しなければならなかった状況については解説パネルにおいて紹介。市町村ごとの避難者数については、公表・非公表・カウントの仕方などにばらつきがあるため、展示が困難。 仮設住宅の間取りなど詳しい状況については、企画展での再現等検討していきたい。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第4回資料選定検討委員会（2019年11月29日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

分類	ご意見・ご指摘	進捗・対応（R2.7）
その他	25 ○ 研究者インタビューの人はどうなっているか。それによって内容が変わると思われる。	除染はJ A E A川瀬様、風評は福島大初澤教授、長期避難はFURE山川客員教授、健康は県立医大安村理事に依頼し取材・編集集中。
	26 ○ 多言語化についてはどの程度対応するか。海外の方に誤解を生まないようにしていく必要がある。音声ガイドは必要になると考えている。	・全体的に基本、日・英は対応を予定している。ゾーンサイン、コーナーサインレベルは日英中韓の5ヵ国対応とした。その他の階層はタブレットなどでの対応を予定している。
	27 ○ 屋外展示はできるだけやった方が良いと考えるが、可能なスペースはどの程度の広さなのか。仮設住宅そのものも展示できるとよい。	・屋外展示については、企画展での対応を検討していきたい。
	28 ○ 仮設住宅の中でも良い建物と長期間過ごすには厳しい建物もある。	
	29 ○ 浜通り以外の被害は扱う予定か。また、いわきは4・11の余震で物資が途絶えるなどの被害があったため、時系列として扱えるか。	・プロローグシアターエリアのスロープ年表において取上げる。
	30 ○ オープンの際にはマスコミが多く報道することになるが、目玉になる資料はあるか。それが一つでもあるとメッセージ性が高まり、来館者の満足度も高まる。	・原子力災害発生直後に1F内で冷却作業等の支援を行った双葉消防本部に関連する資料を目玉の1つとして調査・収集した。
	31 ○ 開館後に無料のパンフレット、リーフレットを作成することになると思うが、多くの言語を用意しておいた方がよい。また、有料かと思うが展示図録、ガイドブックなども少なくとも英語版は用意した方がよい。子ども用ガイドブックなども日・英を検討した方がよい。 ○ 博物館によくあるミュージアムショップはあるのか。また、ガイドブックと合わせて、各自治体が出している出版物等も置けるとよい。指定管理者に任せるよりは県が主導して進めてほしい。また、ガイドブック等もオープン当初にある方がよい。	・昨年度開館までの広報用リーフレットを作成し、今年度広報活動に使用している。順次多言語化して活用予定。 ・ガイドブックについては、指定管理者と協議して段階的に準備していきたい。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第5回資料選定検討委員会（2020年3月25日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

分類	ご意見・ご指摘	進捗・対応(R2.7)
長期化する原子力災害の影響 〈全般〉	1 研究者インタビューについて、人選はどうなっているか。	除染はJAEA川瀬様、風評は福島大初澤教授、長期避難はFURE山川客員教授、健康は県立医大安村理事に依頼し取材・編集中。
長期化する原子力災害の影響 〈4-1 除染〉	2 「タイベックスーツ」について、高線量ではない地域での除染では使われていない可能性が高い。場所としては、「避難の開始」の方が合うように感じる。	「除染」のコーナーにタイベックスーツを展示している主旨としては、事故後の線量が高い時の作業時に使用されていたためである。福島市などの除染の様子については、解説パネルにおいて写真とともに掲載する。「避難の開始」では、当時の避難所で線量を計測する人がタイベックスーツを着て、避難者が通常の私服となっている様子について、写真展示で取り上げる。
	3 町民にとってタイベックスーツは一時帰宅の時に着た非常に印象的なものである。	キャプションに記載。
長期化する原子力災害の影響 〈4-4 健康に関する取り組み〉	4 「県民健康調査」が紹介されるようだが甲状腺検査の結果は出す予定か。甲状腺検査について、データを出すかどうかは別として、何らかの形で経過を紹介した方が良い。	現在分かっていることとして、検討委員会の報告についてタッチパネルにて取り上げる。
その他〈全般〉	5 実物資料に関するキャプション説明はこれから作成するという認識でよいか。文章は展示業者が作成するのか。	県及び指定管理者で精査したキャプションを今回参考資料として提示。
	6 キャプションの文章は、実物が何かをしっかりと伝えるように推敲が必要になる。	
	7 キャプションプレートは難しい内容であったり、小さい文字になってしまっていることが多いため、分かりやすく読みやすいように配慮が必要である。	実際の製作を行う展示業者、運営するイノベ機構と連携し、配慮して進める。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第5回資料選定検討委員会（2020年3月25日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

分類	ご意見・ご指摘	進捗・対応(R2.7)
	8 キャプションだけでなく、音声ガイドも将来的に検討するとよい。	外国語対応としてタブレットを50台入れる予定なので、将来的にその設備を活かした対応も検討していきたい。
	9 証言映像の進捗はどうなっているか。すでにインタビューは終わったのか。9年経ってようやく当時の話をしてくれるようになった方もいるため、この収集は継続していただきたい。	撮影は終了し、映像編集を進めている。その内容を各証言者に確認をしてもらう準備をしている。開館後も証言映像の入れ替えなども検討し、引き続き収集を継続したい。
	10 これまでの委員会での意見はあるが、最終的に展示にどう活かされているかのチェックがいつ頃できるようになるか。	今回参考資料として事前送付済み
	11 施設がオープンしたら資料収集が終わりということではなく、開館後も集まる資料があるはずであるため、絶えず展示替え、企画展などで対応していく必要があると考える。収集された場所については、福島県民は各自治体の位置がわかるが、県外・外国の方には伝わりにくい。収集場所がわかる工夫も必要になると考える。	常設展示の更新や企画展の開催については、運営の中で指定管理者と検討を進めていく。収集された場所の表示については、キャプション上は市町村名を表示し、今後補足資料の作成等で対応を検討していきたい。
	12 かつての故郷を記録に残そうとする個人、研究者、団体がかなりいる。これらの記録も展示（県民の想い、長期避難への対応）や図書コーナーで紹介してほしい。	基本的には資料収集ガイドラインに基づいて収集し、収集した資料については閲覧ができるよう整理していきたい。
	13 新型コロナの影響でオリンピックが延期になったが、伝承館のオープンは変わらないか。	2020年秋頃開館。オープン日は調整中。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設

第5回資料選定検討委員会（2020年3月25日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

分類	ご意見・ご指摘	進捗・対応(R2.7)
資料収集・保存について	14 資料収集は4月以降も継続されるという認識で問題ないか。	伝承館の事業として、資料収集を継続していく。
	15 発災～1ヵ月の間の資料について、どのようなものが資料となるのか気付きを住民等に与えられるとよい。	個人からの収集は避難地域にチラシを配ってその情報をもとに行ったが、原発事故直後という位置づけの資料は各家庭にはあまりないようだった。また、原発事故直後の資料について、線量が高くて収集できないものもかなりあったが、今後収集事業を継続する中で引き続き調査していきたい。
	16 資料そのものの背景、意味をしっかりと伝えられないと来館者にとっても、資料提供者にとってもわかりにくい。資料収集の際も配慮が必要である。	引き続き、背景の調査と合わせて収集を行っていきたい。

